奈良女子大学 国際交流センター News Letter

International Exchange Center, Nara Women's University

Sep.2013 Vol. 32

1. 短期交換留学より帰国した学生による報告

平成 24 年度、本学の短期交換留学制度を利用して海外留学をした本学学生は、14 名でした。その中から６名の体験報告をご紹介します。留学を考えておられる方は、参考にしてください。

国際交流センターでは、留学相談も受付けております。是非ご利用ください。

派遣先:ノースカロライナ大学グリーンズボロ校

派遣期間:2012 年 8 月～2013 年 5 月

生活環境学部 生活健康・衣環境学科 3 回生　吉田睦美

私は２０１２年８月～２０１３年５月の９ヶ月間、アメリカの南東に位置するノースカロライナ州グリーンズボロへ交換留学をさせていただきました。現地では、ファッションビジネスを専攻し、賞金をかけたビジネスコンテストに挑戦したり、「子供博物館」という小学生対象の職業体験施設でボランティアをするなど、とても充実した１年間を送る事ができました。

今回はこの場をお借りして、「言語・文化の壁」を乗り越える方法を、私の現地での経験を交えてお伝えしたいと思います。

私が考える「乗り越える方法」には３つの要素があり、笑顔、マメさ、実績です。

この大きな問題について考え始めたきっかけは、クラス内で「先生、学生共に私の発言を真剣に聞いている人はいない」と感じたからです。ディスカッションを主体として展開する“アメリカンスタイル”の授業で勇気を振り絞り自分の意見を発表した時の事です。おそらく英語が流暢でない、着眼点が少し違うという事が原因で、この状況を１日でも早く変える必要を感じました。なぜなら「留学を自分の中で“成功だ”と言いたかった」からです。そんな中、私は学部の多くが注目しているファッションビジネスコンテストを見つけました。そのチラシを見た時にまず思った事は、「準備をすれば、１位も夢じゃないかもしれない。他の学生とは違う自分のバックグラウンドを生かせるかもしれない」という事で、それと同時にここで実績を作る事ができれば現地学生に対等な関係だと考えてもらえるのではないかと考えました。迷わず挑戦を決断し、以後３ヶ月、資料集めやアイデアの実現性を高めに２４時間営業の図書館で、毎日６～７時間過ごしました。ビジネスについて、アメリカの小売業についての知識など、何もない所からの挑戦でした。結果は２位で３００ドルを獲得する事ができました。しかし、それよりも嬉しかった事は、私を赤ちゃんのように扱っていた先生や学生が、私を対等な立場だと認めてくれたと感じた事です。クラス内で発言した際、困るくらい私の発言に「WHY?」がぶつけられたのでした。

この経験より、「実績」というのは異文化交流の場で良い関係を築く要素になると感じました。それ以降私が取り組んだのは、「知り合いから友達」になる為に、週一回はご飯やカフェに誘って「興味」を示す事です。帰国時に、ある現地学生から「他の留学生より身近に感じる」と言われた事で、私の異文化交流は成功したのだと自信になりました。

日本のマーケットが縮小する中、異文化交流を乗り越えてのビジネスシーンは私たちの世代に課せられたミッションだと思います。そのような状況の中で、交換留学での貴重な経験を生かしていきたいと思います。

派遣先：グラーツ大学（オーストリア）
派遣期間：2012 年 9 月～2013 年 7 月
文学部　言語文化学科　4 回生　横田詩織

<グラーツ市内>

グラーツという都市名を聞いて、いったい何割の日本人が「ああ、あの街ね」と思い当たることができるでしょうか。恐らく、オーストリア第二の都市と聞いても首をひねる方がほとんどでしょう。かく言う私も、グラーツ大学で夏季休暇中に実施された語学コースに参加し、そこで設けられた「グラーツってどんな街？」というトピックで勉強するまではほとんどまともに知らなかった街です。今思えば、名前とそれがどこの国にあるのかしか知らないまま一年間も留学しようだなんて、ずいぶん思い切ったことをしたものです。是非とも真似しないでください。

「なるようになる」と言うよりは「なるようにしかならない」という、前向きなのか後ろ向きなのか些か判断し難いモットーを掲げて私が中欧に位置するオーストリアに渡ったのは昨夏のことでした。実際にグラーツに到着してから語学コースが始まるまで一週間と少し。寮の近くにあった広場で開かれていた市場に感激し、意気揚々と暇つぶしと散策を兼ねて突撃した私は、そこで早々に言語の壁にぶつかりました。

日本ではオーストリアの公用語はドイツ語だと思われていますが、実はそれは間違いだったのです。彼らは誇りを持ってこう言います。「俺たちが話しているのはオーストリア語だ」と。

つまり、南ドイツなんて目ではないくらい（言い過ぎました。ハックナー先生すみません）訛りがきついのです。標準語と呼ばれる言葉を勉強してきた外国人が関西に来てイントネーションや言葉の違いに戸惑う場面を想像していただければ恐らくそれが一番近い状況でしょう。独語の「クレープ」が「パラチンケン」、「アプリコーゼ（杏）」が「マリレン」と、一事が万事そんな調子なのです。しかも、最初に突撃した先が最も訛りがきついであろう農家のおじさまおばさま達が集う市場。この時点で色々と悟りの境地に至ったことが、後の語学コースでばっちり仏語発音の独語で話しかけてくる仏人や最早何語を喋っているのかわからない中東方面の方々とのコミュニケーションに役立ったと自負しております。後にフラットメイトになった英語も独語も話せないアルメニア人とフィーリングで交流したことは、確実に私を間違った方向に自信付けさせました。

留学中、一番綺麗な英語を操っていたのはウクライナ人でした。初対面のオーストラリア人とアメリカ人が幾らか会話を試みて、後に「あいつは英語が喋れない」と文句を言ったりもしていました。案外、言語ってそんなものなのかもしれません。

派遣先:レスター大学(イギリス)
派遣期間:2012 年 7 月～2013 年 6 月
文学部　人文社会学科　4 回生　田口千晶

私は入試に失敗し後期試験で奈良女子大学に入学しました。自分は出来損ないであるという挫折感を克服し、自信を持って今後生きていくための手段として留学を選びました。2 年時に合格をいただき 3 年の夏から 1 年間学んで参りました。

レスター大学ではメディアコミュニケーション学部の授業を履修し、主にインターネットが商業、政治、教育、革命等様々な側面において社会にどのような影響を与えているのかについて学びました。

学んだことのない分野であることに加え、英語での講義ということで、自分の無力さを痛感する日々でした。特に講義中意見を求められると、いつも緊張と恥ずかしさから頭が真っ白になり、何も言えず深く落ち込みました。前期はそのような調子で、部屋に籠り 1 人勉強をする毎日でした。

そんな折、1 人のフランス人と出会い人と交流することのかけがえのなさを教えられました。彼に誘われ遊びに出かけるうちに、少しずつ勉強だけではない毎日が楽しくなっていきました。後期が始まる頃には英国での生活にも慣れ、授業でも発言できるようになっていました。

中国、香港、マレーシア、韓国、フィンランド、イギリスのルームメイトとキッチンで勉強したり、雪だるまをつくったり、そういう何気ない日常が本当に楽しくて、今愛しく思い返します。同じメディア専攻の中国の大学院生と共に週 1 回ディスカッション会を開いたりしたことも、いい思い出です。彼女とは極寒のウェールズで屋外キャンプをしながら日中の政治問題について語り合う等、本当に親密な関係を築くことができました。

他にもここには書き切れぬ程、多くの人と出会い、語り合った思い出があります。それらにより新しいことを知り、広い視野を持つことができるようになりました。入試の失敗も、留学を終えた今では取るに足らないことに思え、自分の未来を前向きに考えることができるようになりました。

勉強についていけるか、治安はどうか、留学を決断するにあたっては多くの不安が付きまといます。しかし私は、大変だった経験も含め心底留学してよかったと思っています。交換留学制度は素晴らしい制度ですので、今後も強い意志を持ち多くの奈良女子大学生が遊学することを願います。

最後に私にこのような素晴らしい機会を与え、また支えて下さった大学の皆様や両親への感謝の気持ちを記し結びとしたいと思います。本当にありがとうございました。

派遣先:南京大学(中国)
派遣期間:2012 年 8 月～2013 年 6 月
文学部　人間科学科　4 回生　安部美穂

私は留学を終え日本の地を踏んだ時、「ここは日本だ」と新鮮に感じました。緑の山々やコンビニの店員さんの丁寧な接客、そんな些細なことに驚きました。これは留学中に中国の文化に触れるだけでなく、中国の生活に適応していたからかもしれません。

ちょうど私が留学した時期は反日デモや空気汚染、鳥インフルエンザなどのニュースが日本で盛んに取り上げられており、日本の家族や友人にとても心配されました。しかし、そんな時期だったからこそ、身を持って感じられることがたくさんありました。尖閣諸島の領土問題で反

日デモが行われていた時期は、外出するのも用心しなければなりませんでしたが、実際に接する中国人との関係には何の支障もなく、現にこうやって仲良くしているのに、なぜ政治家同士が対立し、その報道を見た何も知らない庶民が相手の国に簡単に悪いイメージを持ってしまうのか、とてももどかしく思いました。特に南京は南京大虐殺の地でもあり、日本人に悪いイメージを持っている人も確かにいます。そのことを中国人と話す機会もあったし、日本人留学生で学ぶ機会もありました。この時期に南京に留学したことは何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

留学の中心は中国語を学ぶことでした。クラスメイトはヨーロッパ、アジア、アメリカ、アフリカなど世界各国から中国語を学びに来た人々で、中国語を通じて中国以外の文化にも触れることができました。その中には今も連絡を取り続ける友人が多くいます。

南京には南京日本語補習校という学校があり、日本人の子どもたちが勉強を補習する場として毎週土曜日の午前中に学んでいます。ここの講師はほとんどが南京に来ている留学生で、私もここで有償ボランティアに参加しました。幼児の面倒をみたり、小学生に国語を教えたり、行事の企画、実行や文集作りなども行いました。ここに来る子どもたちは、普段インターナショナルスクールや現地の学校に通っているので、周りの友達と日本語を話すことができません。この補習校は子どもたちのそのストレス発散の場にもなっていて、いかに子どもたちを受け止められるか、講師たちで話し合いを重ねました。この補習校での活動も含め、南京での日本人の方々との出会いもまた貴重なものでした。

留学で出会った世界中の人々とのつながりを生涯大切にしたいと思います。

派遣先：トリア大学（ドイツ）
派遣期間：2013 年 3 月～2013 年 8 月
文学部 人間科学科 4 回生 下村真代

私は平成 25 年春から半年間、ドイツの Trier 大学に交換留学生として派遣して頂きました。1 回生の時、哲学や宗教学に興味を持ち、同時にドイツ語の授業でドイツの文学、文化に触れたことから、ヨーロッパ思想の根源のひとつであるキリスト教が息づき、また多くの哲学者を育んできたドイツという国に実際に行ってみたいという思いを強く持つようになりました。そもそも飛行機にも乗ったことがなく、海外に行くこと自体が初めてで大きな不安がありましたが、両親や先生方、友人らの後押しと協力を得て、留学を決意しました。

4 回生の前期という重要かつ短い期間で留学生活をどのように有効に過ごすのかということが、私にとって大きな重荷となり、その一方語学の能力が追い付かず、留学当初は不安と焦りで心が折れそうでした。しかし、生活に慣れ現地の友人も多くなるにつれ、また友人らの助けもあり、緊張感を保ちつつドイツでの生活を楽しめるようになりました。

<Trier 大聖堂内の中庭>

授業は DaF（留学生向けのドイツ語の授業）のほかに、哲学や神学の授業に参加しました。残念ながらテキスト全てに目を通すことも儘ならず、授業中は先生や他の学生が議論をしているのをただ聞いているだけしかできませんでしたが、ドイツの大学でどのように哲学の問題が取り組まれ、議論されているのかを実際に体験することができたのは大きな収穫であったと感じています。授業に参加していて強く感じたのは、研究や議論に対する学生の積極的な姿勢です。教授

に対しても臆せず意見をし、課題に誠実に取り組む姿勢は学ぶべきところが多いと思います。また、DaFの授業内でカール・マルクス（Trier 出身の哲学者）についてプレゼンテーションを行ったのも貴重な体験でした。日本語で説明するのも難しいテーマについて、いかに分かりやすく、かつ興味をもってもらえるように説明するか、とても苦心しましたが、本番では興味を持って聞いてくれ、笑いも取ることができたのは自信に繋がりました。

この半年間私はちゃんと成長できたのか、今後この経験をどのように生かしていけるのかは、現時点ではまだはっきりと答えることはできません。しかし、ドイツで出会ったすべての友人や出来事は間違いなく私にとって掛け替えのないものであることは確かです。支えて下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

派遣先：梨花女子大学（韓国）
派遣期間：2012 年 9 月～2012 年 12 月
文学部　人文社会学科　卒業生（派遣時は 4 回生）大野奈保子

＜韓国語クラスの学生と先生＞

私は約 4 カ月間、韓国の梨花女子大学に留学しました。韓国には一度語学留学の経験がありましたが、その時は語学の勉強が中心となり、文化や政治についてはあまり勉強できませんでした。そこでこの機会に、前回学べなかったことを勉強しようと留学を決意しました。

梨花女子大学は韓国でも最大規模の大学です。また大学には大きなホールや幼稚園もあり大学生以外の人も多く出入りしています。大学を出ると周辺はカフェや衣料品店が多く、スーパーもあるので大変住みやすいところでした。

授業は午前中に韓国語の授業をし、午後からは各々履修している授業を受けます。私は韓国語で受ける授業を履修しましたが、英語で受ける授業もあります。授業はパワーポイントを使うものが多く、事前に授業のレジュメをもらえたりもするので予習復習もでき安心です。また留学生一人一人と面談の機会を設けて下さる教授もいらっしゃいました。友人とその教授を食事に誘ったところ、快く応じてくださったのが心に残っています。

私は毎日顔を合わす韓国語のクラスの友人と一番親しく過ごしました。日本人、中国人が半々とカナダ人の男性が一人のクラスでした（女子大ですが留学生は男性もいます）。特にカナダの友人ははじめクラスになじめていないようでしたが、徐々に打ち解けていき、学期の終わりにはクラスのみんなでパーティーをし、別れを惜しみました。

私は 4 回生の後期に留学したため、韓国で卒業論文も進めなければなりませんでした。梨花女子大の学生にアンケートをとらなければならなかったのですが、みんな快く引き受けて下さり、とてもうれしかったです。この留学を卒業論文に直接的に結び付けられたことも大きな成果だったと思います。

帰国直前には韓国の大統領選挙もあり、現地にいてこそ分かる貴重な機会に出会うことができました。また友人宅に招待してもらい、韓国の家庭の雰囲気を味わうこともできたし、授業等を通し歴史についても学ぶことができ、目標としていたことが達成できた充実した 4 カ月間になりました。

留学に興味がある人はぜひとも挑戦してほしいです。また半年間だと一瞬で、あとであれもやりたかったなと感じることも多いので、できれば 1 年間留学し、たくさんの経験をしてほしいと思います。

最後に留学にあたり私をサポートして下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました

派遣先：東海大学（台湾）
派遣期間：2012 年 9 月～2013 年 7 月
文学部　人間科学科　4 回生　有高和香奈

私は台湾・台中にある東海大学に交換留学生として一年間派遣していただきました。月曜日から金曜日、「華語センター」というところに通い、三時間の中国語の授業を受けていました。

授業はすべて中国語で進められるので、最初のころはあまり理解できず、つらかったです。しかし毎日受けていると、徐々にわかるようになっていきました。前期のクラスメイトはアメリカ人３人、ベトナム人、韓国人、私の計６名でした。違った価値観を持つ人たちが集まると、とても自由でユニークな授業になるのだと思いました。もともと教科書を使って授業を進めるというスタイルでしたが、誰かの何気ない一言からどんどん派生して、最終的には教科書とは全く別の話題なり、気が付いたら授業が終わっているということもしばしばありました。たとえば、恋愛の話から死刑制度についてまで、みんなで話し合いました。中国語で伝えたいことをすべて伝えることはできませんでしたが、いろいろな話題で違う国の人たちと話せたのは、いい機会だったなと思います。

授業は午前中で終わるので、それ以外の時間は現地の大学生に中国語を教えてもらったり、東海大学の日本語学科に TA として週に一回通っていました。その時に知り合った学生と言語交換をして、日々台湾での生活で不思議に思ったことを聞いたりしました。

台湾に着いたばかりのとき、言葉もわからなくてどうすればいいのか不安に思っていましたが、東海大学の国際課の人たち、留学生をサポートしてくれる学生のおかげで無事生活を送ることができました。台湾に旅立つ前も、先生方、国際課の人たち、先輩たち、友人に助けてもらいながら準備を進めることができました。本当に周りの人たちの支えがあったからこそ、実現できた留学だったと思います。

台湾で知り合った人たちはみなさんいい人ばかりで、とても恵まれた環境だったと思います。台湾で出会った人との縁を大切にしていきたいです。また私自身も台湾で親切にしていただいたように、人に親切に接するということを忘れず、実践していきたいと思います。今回の留学の経験を今後に活かしていきたいです。

2. 夏休みベトナム研修

８月 11 日（日）～25 日（日）の２週間、ハノイ（ベトナム）の貿易大学で日本人学生対象の研修が行われ、本学からは１３名が参加しました。参加した学生の感想文をご紹介します。

理学部　情報科学科　２回生　福島千紘

私がこの研修に参加した理由は学生の内に色んな国の生活を経験したいと思ったのと、異国の大学はどんなものだろうと言う興味があったからです。まず、ベトナムに着いてびっくりした事は交通量の多さです。道路はバイク、車優先なので道を渡るのも大変でいつもクラクションを鳴らされていました。次の日貿易大学に行くと日本語クラブという貿易大学の学生で日本語を勉強している学生との交流会がありました。向こうの学生の語学力は高く、英語も余り上手くない私達に分かりやすいように噛み砕いて説明して頂いてベトナム人の優しさが身にしみて安心した記憶があります。

それからの授業や研修は英語でしたが、常に１～２人の日本語が出来る学生ボランティアの方が一緒で分からない事、不安な事はないかといつも気にかけてくれました。

大学内では英語は通じますが、外の市街地に出ると通じないので買い物や夕ご飯を食べに行く時は身振り手振りで何とか乗り切ったり、学生ボランティアの方に付いて来てもらったりと工夫しました。

一番記憶に残っているのは私達のために最後のお別れパーティーを開いてくださったことです。研修に参加した奈良女の学生同士で考えてプレゼンの発表をして、最後にプレゼントとして寄せ書きを送りました。そこで私は学生代表として英語でスピーチをした経験は一生の宝物です。夕食では先生方や学生ボランティアの方とお喋りして楽しい時間を過ごす事ができました。

この研修を通して一番嬉しかったことはベトナム人の友達、先生そして一緒に参加した日本人学生と交流出来た事です。本当にありがとうございました。

生活環境学部　住環境学科　１回生　安岡美南

私は偶然この研修が紹介されているのを聞き、内容もよく知らないまま軽い気持ちで参加したのですが、二週間も外国で生活するような機会は滅多にないですし、日本とは大きく異なる文化に触れることができたので、本当に行ってよかったと思います。

バイクの上で器用に昼寝している人がいたり、路上で散髪している人がいたりと、日本にはない光景がたくさん見られました。バイクを避けながら道路を渡る、という危険な行為も初めて経験したのですが、こういったベトナムの人々の日常生活を間近で見て体感するのは面白かったです。日本との違いに驚くことも多くあり、おかげで視野が少し広がったように思います。初の海外旅行だったので最初のうちは不安もありましたが、貿易大学の方が親切に案内してくれたのですぐに慣れることができました。大学の講義で文化や歴史、経済について学び、学生との交流を通じてベトナムでの流行を知り、実際に街に出て観光して、と内容が盛りだくさんの充実した二週間でした。この研修中に、楽しいだけでなく実りある経験がたくさんできたので、これからの生活に生かしたいです。また、これを機に、もっと色々な国に行って多様な考え方に触れてみたいと思いました。

3. EUIJ 関西　夏季合宿<Summer Intensive EU Workshop 2013>

今年８月に本学も協定校となった、EUIJ 関西（EU インスティテュート関西）の夏季合宿に、本学学生２名が参加しました。

EUIJ 夏季合宿に参加して

文学部　人文社会学科　２回生　増山雅世

私は 2013 年８月 28 日から２泊３日で EUIJ の夏季合宿に参加させていただきました。この合宿は主に大阪大学、神戸大学、関西学院大学の学生の方々が参加しており、学生が EU についての知識を深めるために毎年行われているものでした。そこに今年から新たに香川大学経済学部、和歌山大学、奈良女子大学が協定校として加わり、奈良女子大学からは私を含めて２名の参加となりました。

合宿で取り組んだことは主に２つです。一つ目は学生全員で EU についての講義を受けて現在のヨーロッパに関する知識や問題点を学ぶというものでした。さまざまな大学から EU を研究しておられる先生方がいらっしゃって、普段聴くことのできない講義を受けることができました。また、資料から講義に至るまですべて英語のものもあり、質疑応答では学生が積極的に英語で質問をしている姿を目にしてその語学

力の高さに驚くこともありました。

二つ目は最終日のディベートに向けてのグループワークです。ディベート用に三つのテーマが用意されておりそれぞれのテーマについて賛成、反対に分かれて夜遅くまで活動しました。主に院生や四回生の方々に先導していただきながらも、担当部分は自分で統計を集め、スライドを作成してディベートを乗り越えた達成感は忘れられません。合宿中は周りの学生の知識の豊富さや語学力の高さなどに刺激を受け、自分のことを振り返るいい機会になりました。

4. 日本人学生と留学生の交流事業「むすびの旅」

８月９日、留学生１８名と日本人学生６名が、泉州岡田浦（大阪府泉南市）で地引網とバーベキューを体験しました。同事業は、留学生の希望により、日本人学生との交流を図ることを目的に2008 年から実施し、今年で６回目を迎えました。地引網を初めて体験する学生も多く、かけ声とともに全員協力して綱を引き、網にかかった鯛やタコ、鮫をつかんでは記念写真に収まっていました。また、バーベキューでは海の幸に舌鼓を打ち、暑さを忘れた思い出多い一日となりました。

留学生の感想文

文学部　レ・ビック・ゴック（ベトナム）

今日、地引網に行って、とても楽しかったです。短い時間で、きれいな海を見られるし、おもしろいお友達ができるし、おいしい海鮮が食べられて満足でした。もともとの知り合いの友達も来たし、初めて会った人もいましたが、みんな遠慮せずに笑顔で楽しく話せて、すごくうれしかったです。知らない人と友達の間には境界が存在しましたが、このイベントのおかげでその境界がうすく感じて、いろいろすばらしい出会いができて、有意義な一日を過ごせたと思います。またいつか今日の友達と一緒に海へ行ったり、バーベキューをやったり、たこやさめなどを手で触ったりしたいと思います。本当にいい思い出になりました。

今日のみなさん、また一緒に出かけましょうね！

5. センター及び国際課の活動（2013年7月～9月）

◆ 国際交流センター及び国際課主催事業一覧

２０１３年　７月　１７日・１９日	「２０１３年度ニュージーランド短期英語研修募集説明会」
２０１３年　８月　　９日	「学生交流体験旅行『むすびの旅』」
２０１３年　９月　１７日～２６日	「２０１３年夏季英語実学講座『TOEFL 対策講座』」
２０１３年　９月　２０日	「外国人留学生実地見学旅行」

編集後記

今年度の交換留学生も、夏休みの間にそれぞれの留学先へと旅立ちました。今号に掲載した先輩方のように、大きく成長して帰ってくることと思います。
国際交流センターNews Letter Vol.32 にご意見ご感想がありましたら、右記連絡先までお願いします。
（編集者：中谷治子）

奈良女子大学国際交流センター　News Letter vol.32
2013 年 9 月発行　　奈良女子大学国際交流センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町　TEL: 0742-20-3736
E-mail: iec@cc.nara - wu.ac.jp
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/index.html